

◎親和自治会 防災セミナー(2022年度1回目)

南街・桜が丘地域防災協議会 本部

2022年9月4日

親和自治会では2020年度に防災組織を発足し、実体験としての「防災訓練」と、防災の考え方、基本知識を体得する為の「防災セミナー」の2本柱で、防災活動を進めています。

今年度(2022年度)の「防災セミナー」は、親和自治会地区に特化した形で、身近で具体的なリスクの大きさと対処方法を学ぶ機会として、2回4時間にわたって開催されます。本日は第1回目が開催されましたが、親和自治会地区に限らず、地震・火災・水害の防災知識として多くを学ばせて頂きました。ここに参加報告をさせていただきます。

	日時	テーマ	場所
1回目 (本日)	9月4日(日) 14:00~16:00	災害リスクを知って備える 地震・水害のリスク	向原市民センター 集会室1&2
2回目	9月25日(日) 14:00~16:00	地域リスクを知って備える 南街1丁目のリスクと対策方法	向原市民センター 集会室1&2

★講師: 蓑田圭二 様 茗溪学園 危機管理部長、防災士、防災トイアドバイザー



ご講師
蓑田 圭二 様

ご挨拶
親和自治会会長 大村様

★以下プロジェクターによるご講義からの資料抜粋

親和自治会 防災セミナー

2022年9月4日（日） 養田圭二

茗溪学園中学高等学校 危機管理部
東村山市立青葉小学校避難所運営連絡会アドバイザー

防災士/静岡県ふじのくに防災フェロー/
日本トイレ研究所防災トイレアドバイザー/2級危機管理士

1. 地震

“南海トラフ地震”予測から捉えるべきこと



- ・東海地震（震源域：静岡県沖）
- ・東南海地震（震源域：愛知県・三重県沖）
- ・南海地震（震源域：和歌山県・徳島県・高知県・大分県・宮崎県沖）

これらの地震が過去複数連動して起きている
（直近の南海トラフ地震）
★1944年昭和東南海地震（M7.9）
1946年昭和南海地震（M8.0）

この時には東海地震は発生していない
（1944年と1946年と重なっていない）

今回想定されているのは
東海・東南海・南海の三連動型巨大地震（M9.1）
【西日本大震災（M9.0）】

東大和市の震度予測5強

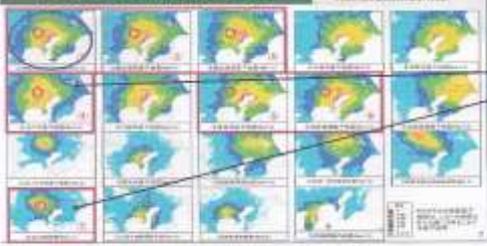
南海トラフ地震が三連動で起こった場合に静岡県沖から四国・宮崎県沖までの地震がズレる可能性がありその距離は南北約700kmにおよぶ（東日本大震災の約1.4倍）⇒ 揺れの継続時間が長くなる

【南海トラフ巨大地震】
東大和市の震度予測5強

“首都直下地震”予測から捉えるべきこと

東日本大震災よりも1～2段階上の強さの地震が予測されている
- 都心直下地震の発生 - などと同様の被害発生の可能性

東大和市の震度予測5強～6強



東京都下で想定される地震

1. 都心南部直下
2. 都心東部直下
3. 都心西部直下
4. 立川直下
5. 東部直下
6. 西部直下

最も被害想定が大きい
【都心南部直下地震（M7.3）】
（1995年阪神淡路地震（死者約1万人）の震源域）

【首都直下地震】
東大和市の震度予測5強～6強



【南街地区の青梅街道沿い】
揺れを増幅しやすい軟弱な堆積層あり。
【青梅街道の東大和病院付近】
始～終の間で
最高標高 96.07m、最低標高 93.51m
で標高差 2.56m

2. 火災

【南街地区の「防災地区カルテ」】
東大和市の防災安全課で自由に
もらえる。
(5段階評価で)
南街5・6丁目の火災危険度は3。
南街2丁目の建物倒壊危険度及び
総合危険度は3。

防災地区カルテ

〇地区の特性

市の商業の中核的役割と、
基盤整備が整ったと密集地の双方が立地するエリア

東大和市駅周辺～青梅街道～富士見通りにかけて市の中心
的な商店街があり、また、基盤整備が整った団地が整備され
ている一方、木造の住宅密集地も形成されている。

地区内の河川	なし
土砂災害警戒区域(危険料地の崩壊)	なし
土砂災害特別警戒区域(危険料地の崩壊)	なし

〇防災上の特性

・地蔵危険度は、市内において相対的に高い。特に2丁目(建物倒壊危険度が市内でワースト上位)あり、(総合危険度も4位)であり、5、6丁目は火災危険度(3)と相対的に高い。
・高齢化率が31.7%と高く、避難誘導等支援などの負担が大きい。
・副都心基盤の木造建物は地区全体の3割を占め、防災上の危険を有する。

災害時における救急・消防車両の到着時間

平時での現場到着時間は平均で **7～8分**

公的援助(公助)は期待できない
(自助や共助で対応できる範囲に収めるのも難しい)

目的: 消火による初期消火

〇初期消火成功率

項目	4丁目	5丁目	7丁目
初期消火成功率	87%	83%	19%

(※参考: 東京都消防庁(1)の初期消火調査(平成27年)より)

道路状況の悪化
(歩行者の歩行なども)

現場の同時多発

消防: スタンバイパイプによる消火活動
断水時は使用できない
(東京都は遠征は高圧水龍巻機も利用している)

家屋の倒壊から
ご自分やご家族の命を
守ることは火災から
財産や地域を守ることに

3. 水害

気象災害と地震災害では被害の発生に大きな違いがある

豪雨被害

地震被害

豪雨被害は広範囲に同一の被害を及ぼす

被害発生の可能性が事前に予想できる

洪水が増れば、
洪水ハザードマップで示された
浸水予想区域にそれが広がる

気象情報や警報レベルに合わせて
適切に行動することで
被害を低減できる可能性が高い

ご自分が持っている事前の個別情報の質・量がリスクの程度を決める

【東大和市浸水・土砂災害ハザードマップ】

想定最大規模雨量(総雨量 657 mm、時間最大雨量 156mm)による、
浸水予想区域を表示。

南街1・2丁目の青梅街道沿いの想定浸水深は 0.5～1.0 及び 1.0～3m程度。

【気象庁の「キキクル」の危険度分布(土砂災害、浸水害、洪水害)】

雨の降り方の情報を得る。

【市の「大雨特別警報発表基準」】

3時間雨量 158 mm、48時間雨量 432 mm



【内水氾濫の発生状況】

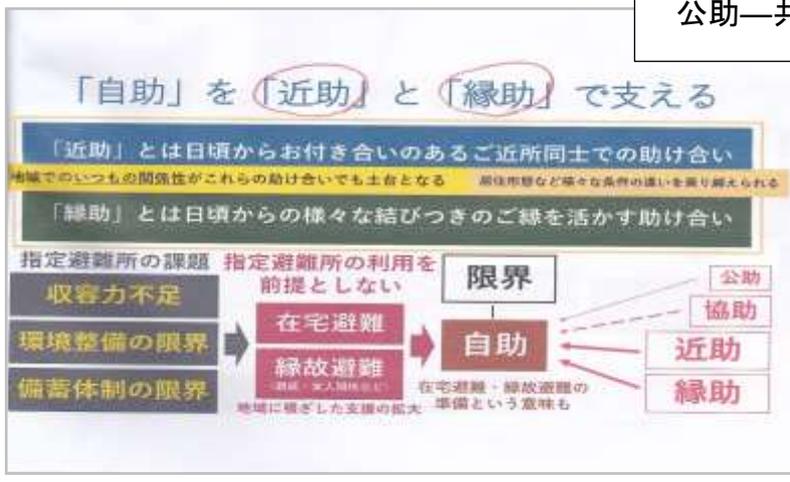
4. 地域の防災活動



【南街1丁目の人口】
生産年齢人口の減少と高齢化。

H17 H22 H27 R2

【災害に対処】
自助が基本だが、近所や縁助も活用。
公助—共助—自助—近所・縁助



子ども会、親和自治会会員以外の皆様

2022年7月21日

親和自治会 会長 大村 賢

「防災セミナー」のお知らせ

コロナ第7波拡大の中、引続き暑さとマスクの息苦しさが続く毎日ですが、如何お過ごしでしょうか？
実体験としての「防災訓練」と併せて、防災の考え方、基本知識を体得する為の「防災セミナー」の
2本柱で進めるとして、昨年度初めて「防災セミナー」を開催しました。

本年度は、更に親和自治会地区に特化した、身近で具体的なリスクの大きさと対処方法を学ぶ機
会として、東村山社会福祉協議会主催の防災セミナーの講師をされていた豊田氏（東村山在
住）に講師をお願いしました。内容が濃い為、2回に分けて合計4時間のセミナーとします。
皆様のご参加をお願いします。

自治会会員以外の方も参加できますので、ご友人などもお誘い合わせの上お越しください。

記

あなたの力が親和自治会地区を救う 防災カアップ講座（1回目、2回目は違う内容です）

	日時	テーマ（※ 暫定内容）	場所
1回目	9月4日（日） 14:00～16:00	災害リスクを知って備える 地震・水害のリスク	向原市民センター 集會室1&2
2回目	9月25日（日） 14:00～16:00	地域リスクを知って備える 南街1丁目のリスクと対策方法	向原市民センター 集會室1&2

講師（1回目、2回目とも）：豊田 圭二 様

- ・茗溪学園 危機管理部長
- ・防災士、・防災トイアドバイザー

（※1）新型コロナ対策について

- ・受付にて体温測定します。（37.5度以上の方は入場をお断りします）
- ・マスクを付けてご入場ください。
- ・会場内での飲み物は各自でお持ちください。

（※2）コロナ第7波拡大中ですが、会場の向原市民センターが閉鎖にならない限り開催します。

開催日2週間前ころ、開催可否を含め、改めて最終のご案内をします。

以上